

2024年 夏季参加報告書

参加プログラム：SMEAG(IELTS コース)

参加時の学年：1年、学部：人文、学科：ヨーロッパ文化

今回のプログラム参加の目的は IELTS5.5 を取得することでした。海外の大学院への留学を最終目標として大学 1 年生のこの時期に短期留学を体験できたことが今回の短期留学での 1 番のメリットだったと思います。また、フィリピンに行き最も驚いたことは SMEAG の生徒の多くが日本の高校生だったことです。彼らの目標やこれまでの経験、生活環境などを聞くと日本の現状やどのような経緯、意図を持ってフィリピンに来たのかを知ることができ、とても有意義な時間を送ることができました。さらに、台湾人の友人と台湾や日本の現状について深夜まで話したことがとても思い出深い出来事となりました。台湾では政治に関して高校生が深い話をすることが日常的であり、話し合うだけでなくデモなどの行動も起こしているという話を聞き、日本との差を感じました。日本では大学に行くことが一つの通過儀礼のようになってしまっていますが、SMEAG の生徒の多くがその一つ一つのステップに意図や動機を持っていました。日本では「何故？」を探求して友人に煙たがられることが多くありましたが、SMEAG ではみんな慣れた様子で質問に答えていたところに、自分の人生を自らの選択で進んでいることがわかり、自分自身へのモチベーションにも繋がりました。

また、SMEAG に参加したことで英語を話すことへの壁が少し低くなったと感じました。今までは英語を話せると聞いたら憧れの念を強く持つことが多くありましたが、今では素直にその能力を受け入れられるようになりました。また今回の留学を通してもちろん英語が流暢に使える、IELTS の試験で良い成績を取ったりすることを目標にそれぞれが留学しているけれども、相手に伝えたい何かがあるということ、聞く意思があることを体全体で表すこともコミュニケーションの中では重要なのではないかと感じさせられました。

加えて 1 ヶ月間異国で他人との生活ができたということは自信に繋がりました。参加した人の多くが他の人とこんな風に生活できるとは思わなかったと言っていて、私自身も同じように感じていたので、一度経験してみることが新たな一歩につながると感じました。同じように 1 ヶ月フィリピンに行くという何かすごいことをするような雰囲気でしたが、実際行ってみるとそれは全くすごいことではなく少し勇気を出せば近づく世界でした。目標を持って人生を選択する楽しさや挑戦することの面白さを知れました。

また、今回の留学ではフィリピン人への印象も大きく変わりました。彼らへのステレオタイプとして少し怠惰な印象を持っていましたが、SMEAG の先生の多くは夜遅くまで働き、休日も出勤していて日本の働き方と同程度かそれ以上の忙しさでした。国をステレオタイプで認識することの欠点が垣間見られました。フィリピンの人にも一生懸命働く人もいるし、そうでない人もいます。それは日本でも同じことだと感じました。

最後に、私が掲げた目標である IELTS の試験対策は日本でも行うことは可能ですが、今回海外で試験の対策を行うことは日本で試験対策をするよりも深い学びを得られたと思います。例えば台湾の友人ができたことで、日本がどれだけ海外の人から愛されているのかを知ることができました。私を含めて日本の多くの若者が日本に誇りを感じていないように思いますが、一歩外に出てみるとどれだけ恵まれた国に生まれたのかを自覚することができました。一度海外に出てみないと経験することのできないことを大学 1 年生の夏に経験できたことは、これからの人生の大きな糧になると思います。さらに、SMEAG への参加は私のように海外渡航経験が一度もない人にとっては素晴らしい経験になるのではないかと思います。

今回の経験をまずは 9 月の IELTS の試験に活かし、大学 3 年次にオランダで交換留学を行い、大学卒業後は海外の大学院に入学することを目標に現状に甘んじず挑戦を続けていこうと思います。また、この経験をさせてくれた家族に感謝しています。勉学にはお金が必要不可欠であるということを今回の短期留学で身に染みて感じました。多くの留学生は親のお金に支えられています。この経験や学びを今後の生活に還元できるように努力していきます。

